

みうらトーク&トーク 平成 29 年度第 3 回

日 時

平成 30 年 1 月 29 日(月)

16 時～17 時

参加者

神奈川県立平塚農業高等学校初声分校生徒 8 名

テーマ

三浦市の魅力についてとことん話し合おう



<意見交換・概要>

掛田先生

初声分校の掛田と申します。よろしくお願ひいたします。本日はこのような貴重な機会を設けていただきまして、どうもありがとうございます。

市長様よくご存知でいらっしゃるんですけども、神奈川県立平塚農業高等学校初声分校は、三浦半島の農業の担い手を育てる学校が欲しいという地域の声を受けまして、昭和 25 年 4 月 1 日、県立平塚農業高等学校の分校として、当時の三浦郡初声村下宮田に開設をされました。定時制の農業科、当時の定員が 50 名です。

現在ですけども、昼間定時制園芸科学科に 1 学年 1 学級、計 3 クラス 98 名の生徒が学んでおります。平成 12 年に創立 50 周年を迎えております。

県立高校改革の一環として、お隣の県立三浦臨海高校との統合が決まりまして、平成 30 年 4 月 1 日より、普通科と農業科を併置する新しい学校「県立三浦初声高等学校」としての歩みをスタートします。

普通科・農業科それぞれですね、特色を生かすとともに、また、学科併置の特色メリットも生かしてですね、柔軟で多様な学びを実現できるというように考えております。

新しい学校とはなりますけれども、初声分校としてこれまでの長い歴史の中で、培ってまいりました様々な成果を礎として、地域に根差し、地域の農業、また、新たな産業を担っていく人材を力強く育てていきたいという風に考えております。

三浦市をはじめ、地域の皆さまには、これまで同様にご支援とご協力を賜りたいと思っておりますので、どうぞ今後ともよろしくお願ひいたします。

以上をご挨拶とさせていただきます。

市長

いろいろ聞きたいことがいっぱいあるし、皆さんから言っていたきたいことも

いっぱいあるのね。まずは自己紹介しましょう、簡単に。

私が市長の吉田です。先ほど挨拶しましたが、政策部長というのは、三浦市をどういう方向に持って行こうかというのを考える部署の部長なんですね。そこにいるのは市民部長と言って、三浦市民の方々と直接関わり合いがある、例えばこういった市民対話集会だとか、防犯や交通だとか、あと地域の自治体の活動なんかもありますよね。そういうのを担当している窓口なんですね。そしてあそこにいるのが市民協働課長と言って、市民の皆さんと一緒にいろいろなイベントをしたりとか、情報公開とかいろいろ沢山あるんだけど、そういうことを担当しています。もう一人の子は、一番若手のね、普通のサラリーマンという平社員だね。事務を担当しています。

三浦市は、やっぱり農業が非常に盛んで、基幹産業です。基幹産業というのは、市を支えるね、産業として、農業とか漁業、あと観光ですね。そういったものが中心で、三浦市の長い歴史の中で栄えてきてるんですね。この平塚農業高校の初声分校というのは、そういった意味では、先ほど先生も言ってらっしゃいましたが、昭和 25 年、三浦市が誕生したのが昭和 30 年なんですよ。ですから、三浦市が誕生する前に既にできていて、多くの卒業生の方が、その辺で畑にいる人たち。よく見かけるでしょ。あの人たちはみんな平塚農業高校の卒業生。

今定時制なんですか。

掛田先生 はい。昼間定時制と言って、昼間の定時制という学校ですね。全日制と同じように昼間に学校に行って勉強するんですけども、定時制ではあります。

市長 4 年行くの？

掛田先生 基本的に 3 年間で卒業いたします。

市長 昔は 4 年行ってたけどね。

掛田先生 そうですね。今 4 年生まで残る生徒はほぼいないです。ほぼというか、いないですね。

市長 最近はその、農家の後継ぎっていうのかな、農家をやるっていう子が少ないのかな。そういう話もちらっと聞いたりとか。今、農家の跡取りっていうのかな、農家の子って少ないんでしょ？女性が多いんだっけ？

生徒 今の 3 年生が、多いです。

市長 女子が多いの？

- 生徒 男子が 9 名しかいないんです。
- 市長 9 名しかいないんだ。1 学年は何人ぐらい？
- 生徒 30 名前後ですかね。
- 市長 園芸関係を志望している子が多いの？そんなことない？
- 生徒 この学校には畜産科があって牛がいるんですけど、中には例えば、お花とか野菜を育てるだけでなく、そういった畜産や酪農関係に興味を持った方なんかは、女子生徒でも結構この学校に来たりしている人もいます。
- 市長 そうなんだ。じゃあいわゆるその、直接畜産農家の方々と意見交換したりだとか、農家の人たちととかっていうのはあんまりないの？
- 生徒 この学校の特徴の 1 つなんですけれども、日本国内でもかなり特殊な実習がこの学校にはありまして、依託実習っていう実習があるんですけども、その実習というのが、週に 1 回、約 1 年半ぐらい、自分の職場体験先を探して、例えば家が農家じゃない生徒とかは、農業に興味がある場合は例えば三浦の農家さんだったりとかに、1 年半にわたって週に 1 回実習をやらせていただけないでしょうかという風に自分で交渉して、そこから、実習でそこでしか学べないようなことを自分で学んだりしていく授業がこの学校にはあります。そういったところで、中にはその、牧場とかにも。
- 市長 なるほどね、そういう制度があるんですね。
- 生徒 そうですね、工業高校でいうインターンシップの拡大版みたいな形の授業を展開して、やっているという形になります。
- 市長 それはとても良い経験になってる？
- 生徒 すごいですね。やっぱり、社会に出ていく、これからの農業を担っていくっていうのもそうですし、社会人になっていくっていうのにとっても、少し社会に触れる機会がやっぱりすごく大きいので、すごく経験になったりはしますね。
- 市長 うん。それで、卒業後の進路というのは、直接そういった職業に関わるっていうケースだとか、進学するケースっていうのはどうなんですか？

生徒 結構依託実習に左右されると思うんですよ。私は依託実習で農家さんに行ったことを通じて、東京の農業系大学に進学することを決めて。

市長 そうなんだ。それで、えっと皆さんその、例えば依託実習に行かれてて、三浦の農業だとか、皆さん農家に？畜産っていうのは牧場に行ってるの？

生徒 今この場にはいないんですけど、中には牧場に行っている人とかもいます。

市長 それは自分で頼みに行くの？

生徒 そうですね。全部一から自分で行きたい場所探して、連絡を取って、こういうことをしたいんですけど大丈夫ですかっていうのも全部含めて授業なので、それも含めて全部自分たちでやっています。

市長 なるほどね。君はどこ行ったの？

生徒 僕は農家に行っていて、横浜の農家に。

市長 横浜の農家ね。そうですか、君は？

生徒 私は横浜の方にある、TVK が運営しているイングリッシュガーデンっていう薔薇を扱っているところに行かせていただいています。

市長 イングリッシュガーデンって有名だもんね。それ 3 年生で行くの？

生徒 いや、2 年生の 2 学期、秋からですね。

市長 そうですね。ここが三浦市にあるじゃないですか。三浦市のまあ農家とかっていうところに研修に行ったらしゃる友達もいるよね。そういう人たちの意見というか、皆さんも感じる場所なんだけど、三浦市の農業って、とてもその、活発に行われているっていうか、大根だとかキャベツとかも有名でしょ？全国でも指定産地、大根だとかキャベツって指定産地になってるし、ミカン狩りだとかいちご狩りだとか、そういう観光的な要素もあるし、非常に農業としては、狭い面積にしろ、自立した農業というのが行われているんですね。そういうのを感じますでしょ。僕は説明してるけど、実際に、「大したことやってないな」なんてことないでしょ。ちゃんとしっかりとやっていると思うんで。

それで、土地が、三浦市って三浦半島の先端で、畑がとても多いって感じるでし

よ。で、市域の 3 分の 1 以上が農地なんですね。だから、面積的には、人口の割には広いんだけど、畑が中心で、土地の使い方っていうのは決められているから、農業を守っていきこうっていう姿勢をずっと昔から守られているんですね。それで実際に、農協さんが中心になって、生産者の皆さんからキャベツとか大根を預かって、全国に販売するような仕組みが出来上がっているんですね。

これからの課題という、たくさん、例えば多品目。多品種多品目を作らなければいけないとか、直売ってわかる？すかなごっそみみたいな。ああいう直売形式というのが、非常に今浸透してて、三浦市でも、うらりってわかるかな。うらりの 2 階に野菜の直売所ができての知ってる？やさいマルシェって言ってね。

生徒 1 年生の見学で多分。

市長 そうですか。あそこに農家の皆さんが登録してくれて、すかなごっそみみたいな形で、農家が直接持ってきてくれて、販売しているんだけど、直売のニーズっていうのが結構高くて、そうすると品物いろいろ、結構作んなくちゃいけないって必要にせまられてきて、今そんなような動きもあるんですよ。

だから、皆さん感じる、三浦市の農業について勉強してないだろうけど、三浦市の農業について、何か気が付くようなことってありますか？例えば直売所をね、すかなごっそみはあるけど、もっとこっちにもあった方がいいんじゃないとか。花を売っているところとかあんまりないし。花屋さん、あんまり何軒もないよね。

畜産なんかも、今コーシンミートっていう肉を卸している会社、その人は三浦の人で、これからは湘南三浦牛というのが、ブランドがあるんですよ。それを売り込んでいこうかなっていう動きもあるんですよ。

今その三浦市って、農業が基幹産業として定着してるんだけど、皆さんが学生の感覚として、今まで勉強してる中で、三浦市の農業について何か感じることはありますか？あんまり考えたことない？

生徒 3 年生は依託実習が終わっちゃったんですけど、私が行ってた農家は、観光農園とか多品目をいろいろやってるんですけど、その中で、多品目育てるとどうしても作業が多くなっちゃうじゃないですか。作業が多くなっちゃうと、直売もやってるんですけど。直売のうらりに出しているんですけど、うらりに野菜を運ぶ手間がいろいろかかっちゃって、人も少ないので、あんまり、農家さんが言うには、むしろうらり側から野菜を持って行ってほしいって言うてるぐらい人が足りなくて。そういうの見てると、人手不足だになって、すごい身を感じる感じが結構ありました。

あと、うらりっているんな農家さんがものを出さないですか。商品って、B 級品とかも流すのですが、B 級品は農家さんが全部自分で消費しきれないじゃないですか。だから、とにかく安く売ろうって直売に出しちゃうんです。自分で値段を決められるから。だからすごい安く出しちゃうんですね。それを見てると、売るために

どんどん値段を下げたって、三浦の野菜の価値自体がどんどん下がっちゃうのになって思ってます。だから、それを食い止めるために、あんまり値段を下げない方がいいと思うんです。

市長

まさしく生産者目線だね。三浦市の農業に対する取組って、ほんとに作っている人たち。農家の、生産者の皆さんの目線でしか、つまりその消費者に安く供給するだとか、消費者サイドの考えってあんまり持っていないんですよ。生産者に、いかにメリットがあるかっていうのを基本にやっているんですね。

値段を一定程度の価格で売らなければいけないっていうのは基本なんですよ。例えば大根作るにもキャベツ作るにもコストがかかってますからね。いわゆる再生産価格って言って、次に作るために一定程度の金額で売れないといけないっていう、そういうネットワーク。工業製品なんかは、単価決まるじゃないですか。例えばこういうものが 100 円だとすると、そのうちの 80 円がコストで、20 円が利益だって決まるじゃないですか、一般の商品って。ところが農業だとか、農産物だとか魚とかっていうのは、市場で、消費者のニーズで、需要と供給のバランスで値段決まるんですよ。生産者としては、おかしいと思うじゃないですか。でもね、それってやっぱり根本的な解決ができなくて、非常にジレンマに追い込まれることがあるんだけど、高い年もあるし、安い年もあるじゃないですか。だからトータルで考えると、ほぼ一定程度の収益っていうのは三浦市の場合は確保してくれてるんです。だから直売の仕組みなんかを、この後徐々に広まってくると、やっぱりいい品物と、そうでない品物っていうのは明確に表示を分けて販売していくようなことになると思います。だから、実習先は分からないんだけど、多分うちの直売所で安く売ってくれるっていうのは、消費者にとっては良いことかもしれないし、ちゃんと B 級品だとかっていう表示をしていけば、問題ないと思うんですね。

直売がどんどん広まるっていうのは、確かにいろいろなものを作るっていうのは、いろいろ手間がかかりますから、みんな嫌がるんだけど、でもそれでも直売のこれからの将来性を考えると、選択するという方が徐々に増えています。だから、畑なんかでも大根キャベツだけじゃなくて、いろんな多品目を作るような畑を確保したりだとかっていうことが今の流れなんですよ。

三浦市って農地が、遊休農地って言葉聞いたことあるかな。畑をやる人がいなくて、放置されている畑がよく全国的に問題になってたりしてるんだけど、三浦市の場合は、その遊休農地がほとんどないんですね。例えば後継者がいなくて畑があるけど、そこは別の農家の皆さんが借りたり買ったりしたりして、使っているのが実情なんですよ。だから三浦市の農家のみなさんて、ほんとに自立をしてくれてるっていうのが、我々の誇りでもあるんだけど、実際に今お話してくれたみたいに、農家の素直な意見だと思うんです。うちの直売所に運ぶのが大変だからどうにかしてくれないかみたいな話は今でもよくあるの。でもそれほどこも 1 つのルールでやらせてもらってるんで、それを直すっていうのはちょっと難しいかもしれないけ

ど、一応売り場ごとに、品物ごとじゃなくて農家ごとの売り場になってるの。例えば大根コーナーとかキャベツコーナーとかじゃなくて。農家ごとにスペースがあってやってもらってるんですよ。結構ね、人気があったりなかったりっていうのがたまにあるみたい。

農作業してたりとかっていう人達と話をする機会とか、先輩とかと話をする機会ってあんまりない？三浦市の農家を見て、横須賀でもいいんですけど、三浦半島の農業を将来的に見て、未来展望っていうのかな。こうしたらいいとか、ああしたらいいとかって。まだわからないか、難しいかな。

生徒

私は家が魚屋なんですけど、花が好きでこの学校に来たんですけども、一応卸売とかもするので、毎週日曜日に三崎の朝市にお店を出しています。その中で、やっぱり朝市だから魚も売りますし、もちろんそれ以外に野菜とか花とかも売んですけども、野菜といたらうちの学校でも直売って週に1回やっているんですけど、野菜はまだいろんなところに直売所が三浦市内にあると思うので、一般の消費者の方から見ても手に入りやすいと思うんですけど、例えばお花とかになると買える所ってすごく限られてくると。先ほどもおっしゃってたと思うんですけども、朝市も毎日やっているわけでもないの、どうしても買いに来れる日も限られると思いますし、学校でもお花とか売りますけど、ここも来るのに途申坂があったりとかして、年配の方なんかは来るのにすごく大変だったりとかすると思うので、例えば野菜だけじゃなくてももう少しお花とかも売れるようなところも。もちろんそれは簡単なことではないと思うんですけど、そういったところにも発展としてちゃんとつなげられていけたらいいのかなっていうのを考えています。

市長

ありがとうございます。なにか気付くことありますか？

生徒

えっと、僕個人のあれなんですけど、結構僕横浜の農家さんとお話をする機会があって、横浜の農家さんから見て三浦の農家さんてどんな感じなんですかって聞くと、やっぱり、生産しているのはすごくて、横浜の農業に比べたら規模もすごいって聞くんなんですけど、じゃあ、これから未来的にどういう風になっていく、どういう農業が盛んになっていくのかっていう話をすると、やっぱり機械化。人よりもやっぱり機械が出てくる面がすごく強くなるんじゃないか。これだけの農地のでかさをやっぱり人間だけで補っていくのは無理なんじゃないかっていう話がすごい出て、他に言えば千葉の房総半島の方とかの農家さんとかも、そろそろ機械化がどんどん進んで、一人の農家でやっていくんじゃないかって、もっと集団的にまとめてって、会社みたいな形でやっていく農業の方が、もっとより盛んにできるんじゃないかっていう風にお話している農家さんもらっしやいましたね。

せっかくこれだけ広い農地があるので、それを一括にまとめるようにやっていくと、もっとより効率的よくできるんじゃないかっていう話をしている農家さん多い

ました。

市長 それについてどう思う？

生徒 それについて僕の意見としては、今のやり方の方がいいんじゃないかなって僕は思いました。なぜかという、やり方が違う農家さんとか、こういう風にこれまでずっとやってきたって農家さんとかもいると思うんで、いざ統合して一緒にやっっていこうっていうのは、今までの農業っていうのがあるんで、そう簡単にはできることじゃないんじゃないかなって思っているんですけど、やっぱりほかの農家さんに聞くと、一緒にやる方が効率も良いし、より生産量をアップさせるんだったらそれの方が、機械化した方が手間もかからないし、っていう意見も言っていましたね。

市長 三浦市の場合ね、農業生産法人の今、会社にしていくとか、機械化を進める上で、農業生産法人っていうのは、そういうのは勉強してるよね？

生徒 はい。

市長 農業生産法人つくっていくと、まあいろいろ会社組織にして、農産物を会社が作って販売するっていう手法になるんだけど、一程度の規模がないと農業生産法人にしてもメリットがない、見出せないんですね。三浦市なんかの場合には、1~3ヘクタールの農家を中心なんで、農業生産法人にするまでの規模にはなっていない。つまり、スーパーだとか、大手の事業者が自分の所で売るために農業生産法人を作って広大な農地を取得して、自分の所で売る野菜を作ったりという動きが今、始まっているんですね。そういった意味では、三浦市なんかの場合には、一程度の規模だとか、生産量とか、まあ機械化はもちろん、以前に比べたらね、全然進んでますから、農家の皆さんの作業の負荷もだいぶ軽減されたと思うんですね。

今三浦市で直面している課題というのは、後継者の問題だとかっていうのは、やっぱり直面してるんだよね。こちらの初声分校の人達っていうのは将来農業を目指すとか、園芸を目指すとか、そういった方たちなので、是非三浦の農業を理解してもらって、従事できるような仕組みを考えてもらわなければいけない。つまり、畑が持てる人って、農業者登録っていうのをされてないと畑って持てないんですね。それは年間 100 日以上畑をやるとか、そういう条件があって、農業委員会っていうところに登録をするんだけど、私なんかも元々昔農家で、父の代は農家で、畑とかあるんだけど、もう農家やってないから、農業者登録できてないの。だから畑は今親戚が使っているんだけど、だからそういうの、自分としての課題でもあるわけ。

いずれにしても、機械化っていうのは当然これから進めなきゃいけないことだし、是非。

農業機械の免許とかもやるんでしょ？

生徒 はい。2 年生に時の選択で、農業機械を取っている生徒は、そうですね、農業機械の勉強をしてるので。トラクター、あとエンジンについて学んだり、農業機械について学んだりしてます。

市長 あなたの専攻は？専攻というか、何をやりたいの？

生徒 今勉強してるのは、基本的なもの。まだそういう選択とかは 2 年生になってからなので、今はお試し期間のような。

市長 あ、じゃあこれからだ。これから自分で実習先を選んだりだとかして、決めていくわけだ。

あとは三浦市、三浦半島、この横須賀三浦の地区で、例えば今の農家だとか、生産者の仕組みっていうのかな。今ね、だいたいデータを見ると、三浦市の農家数って 754 あるのね。で、世帯数の約 4.2% を農家が占めてて、そのうちね、65% が専業農家。で、平均年齢は 56 歳くらいで、全国平均は 60 歳くらいだから、神奈川県平均も 60 歳ちょっとくらいだから、三浦市はまだ若いんですよ。農業後継者も一程度はきちんといるんだけど、まあいないところもあるっていうんですね。で大体 10a っていうと一反っていうんだけど、一反あたり 39 万くらい平均所得があるんですね。で、39 万っていうと、神奈川県内の平均が 13 万くらいだから、3 倍くらいあるんですよ。だから農家で、きちんと皆さんやっていけてるというのが、三浦市の現状なんです。

でもやっぱりいろいろ課題がある中で、農業後継者をどうするっていうのが、やっぱり農家のお嫁さんとかお婿さんがなかなかなくて、あの「アグリ de デート」とかって聞いたことある？婚活みたいなことやってんの。そういう婚活イベントみたいなこともやってて、農業後継者ってとっても大きな問題なんですね。

今度皆さんは三浦臨海の都市農業科っていうところに、自分たちで選択するの？1 年生 2 年生は。

掛田先生 この子たちに関しては、入学当時の園芸科学科のまま卒業時まで学んでいきます。で、平成 30 年 4 月 1 日に入学する最初の子たちから都市農業科になります。

市長 じゃああの、農業のことはこのくらいにしてもいいんだけど、皆さん三浦市まで通ってくれてるよね。横須賀の人はあんまり違ってないかもしれないけど、三浦市ってどう感じます？三浦市のイメージを。

生徒 緑が多い。

あったかい。
食べ物がおいしい。
景色が良い。
穏やかな空気がする。
野菜を育ててるって感じ。畑がたくさん。
新しい野菜の改良とかに力を入れている感じ。
緑が豊かで自然を感じられる。
夜は星がきれい。

市長

やっぱり自然環境が良いっていうのがね、総じて、ご意見をいただくことが多いんですね、やっぱり横須賀とか三浦って定住人口が少しずつ減っちゃってるんですよ。だからつまり住む人が減っちゃってるんですね。三浦市なんかは来てくれるお客様、来遊客っていうんだけど、それがねやっぱり、グルメ。マグロとか野菜だとかって有名じゃないですか。だからそういう食を求めたり、ロケーション、自然がいいからちょっと来てくれたりっていうのが非常に多くて、三浦市の来遊客数っていうのは、徐々に伸びてるんですね。やっぱりその観光っていう産業をきちんと育てていって、お客様をお迎えして、そういった職業についていただけるような雇用環境を整えないと人口って増えないんですよ。そんなようなことに取り組んでいるんだけど、あの、城ヶ島とかって行ったことある？城ヶ島ってね、ミシュラングリーンガイドっていう、ミシュランってほら、レストランなんか星もらったりする、あれのねガイドブックみたいなミシュランが出してて、それにはあの、三浦市の城ヶ島っていうところが2つ星とあって、是非寄ってみたいところっていうポイントももらっているんですよ。最近ヨーロッパの人も、東南アジアの人が多いけど、海外からもお客さんが来てくれて、インバウンドっていうんだけど、海外からのお客さん呼び込もうっていうのを、京急なんかと一緒にやったりしてるんですね。だから三浦市にそういうイメージを持っていただけるのは、我々のやりたいと思っていることと合致してるかなとも思うんですね。

では、皆さんは三浦市に住みたいと思いますか？

生徒

思います。

市長

思う？お、えらい。あと、なにか三浦市の魅力って、ちょっと気付くようなことってありませんか？良いことだけじゃなくていいんですよ。例えば、交通の便が不便だとか。

生徒

それさっきここで話してたんですけど、ここはすぐそこにある和田のバス停のバスが来ないのと、あと時間帯がちょっと遅くなってしまうと全然バスが来ないので、帰りが遅くなるなって思ったり。

あとは、星空がすごい綺麗に見えるんですけど、やっぱり冬の時期って午後 5 時頃になると結構暗くなってくるじゃないですか。そうすると街灯が少ない。前に友達達が農道を自転車で走ってたらずらに落ちたとかって。

市長 街灯ね。畑の前の街灯ってないのよ。

生徒 畑は昼とか夏とかだと、三浦市って緑が良いなって思うんですけど、夜になると、一気に真っ暗になるから、怖いとか。

市長 畑はね、電気付けなくていいっていう話もあって、通学路だとか、民家がある所ってというのはもちろん、地域の自治会の皆さんからの要望だったりして街灯を付けるんだけど、三崎口から引橋まで行く道路って、左側に街灯一つもないの。左がずつと畑でしょ。右側には少し付いてるの。そんなのもね、新しい発見ができるかもしれない。

で、まあバスの便が悪いって話ね。確かにバス便悪いかもね。ここ渋滞するから時間通り来ないよね。

他に何かありますか。ちょっと漠然としてるかな。じゃあせつかくの機会だから、市役所の人たちにこれは言っておきたいってことない？

勉強の環境というのは、例えば専門の先生がいるんでしょ？農家の OB とかこの OB とかが教えに来たりしないの？

掛田先生 いないことはないですね。

市長 よろしいですか？ほかに何かございませんか？

生徒 はい。多分これどうすることもできないんですけど、通学バスが欲しいなって。ここって、私電車とバスで通学してるんですけど、三崎口からのバスが 1 本でも遅れると、あっちの横須賀市民病院の方にある海洋科学高校の子と大楠高校と臨海の子と平農の学生の子でバスが満員で、たまに遅刻しちゃうんです。それで乗れなくて。そういう時に、通学バスがあったらなって思います。

市長 でも、切実な悩みだよな。ほかに何かありますか？

生徒 作業してるときにトラックで移動するんですけど、道路がちょっとガタガタしてるところがある。思いっきり衝撃を受けるところがあるんですよ。

市長 農道の整備っていうのはなかなか進められてないんだよね。地域の農家の皆さんに材料を支給して、昔の言葉でいう道普請っていうんだけど、皆さんが出て来て、

使っている道路なんかを直すっていうのは、やってもらったりしてるんですよ。なんていうんですかね、地区によってばらつきはあるんですけど、確かに道路は悪いですね。よくわかってます。努力いたします。

生徒

道路であれなんですけど、僕すごい自転車が好きなんですよ。三浦市って結構自転車が有名な町じゃないですか。でやっぱその自転車で走っている人たちが、三浦市せかく風もよくて走りやすいのに、車の走り方が良くないとか、道路で走っていると狭くてすごい怖いっていう意見が多くて、すごい走ってて楽しい場所なのにそこだけがもったいないなって。さっきも言ったようにガタガタしてるし。っていう話はよく聞きますね。

市長

自転車はね、今三崎口の駅でレンタサイクルって、あの赤い自転車、始めたりだとか、自転車の利用って結構今重要視してて、道路だとか自転車専用道路作るっていうのはなかなか難しいんだけど、警察団体の協力をお願いして、自転車の事故を減らそうっていう動きをしてるんですけどね。ただ、ロードバイクでいらっしゃる方々っていうのはスピードも出るし、テクニックも高度だし、車なんかと交差したりするの、スピードも出てるし難しいのかもね。そういう条件もあるんですけど、まあ事故を減らそうということは運動としてやってますので、ぜひ、自転車をこう、来なくていいなんていうことは一切ないんで、自転車で来るお客様はウェルカムの姿勢でやってますんで、例えば休憩地点を作ったりだとかっていうのをやりますんでね、ぜひどんどん使っていただいて、もしそういう意見があったら、いろいろ市民運動でも改善を目指してるみたいですよ、みたいに言っていただけるとありがたいです。

今日はありがとうございました。

※ 公表については了承を得ております。